

(様式3)

自己評価結果票 バラ (2F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意見も取り入れ、施設独自の理念をつくっている。 	<p>情報の収集が乏しくこれからは積極的に地域で行われることへの参加を利用者様の個性に合わせて取り入れていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確認しやすい場所に理念を掲示して職員間での共有を図っている。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングなどで理念とその根本的考えを伝える機会を設け、職員への浸透を図ってきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を玄関口に掲示し、面会者・訪問者がいつでも確認できるようにしている。 ・家族向けの広報誌を発行し、施設の理念や施設での暮らしを伝えるようにしている。 ・運営推進会議の中で理念の説明を行っている。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族会を開催し、理念の説明、取り組みの理解を得る機会としたい。
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学などの来訪者には積極的に応対している。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣・地域の方々と交流できるような場を定期的に企画し、利用者や職員との関係を構築していきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事へ積極的に参加している。 ・これまで数回ボランティアによる催し物(踊りや演奏等の出し物)を行っているが、先方の都合により定例化できていないのが現状である。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人会や学校など、地域との交流を深めるため、地域活動への参加も行っていきたい。 ・社会福祉協議会等に協力を仰ぎ、ボランティアによる催しを定期的実施し、交流の機会を増やしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・第三者評価の意味・意義を職員に説明し、理解させた。 ・まず職員に自己評価を実施させ、施設の課題を明確にさせた。	○	・自己評価を行う中で改善が必要な項目を明確にし、改善へ取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・第一回の運営推進会議では、入居の状況・現在の取り組み内容・今後のビジョンなどについて報告を行った。	○	・今後、会を重ねる中で施設とのつながりを深め、率直な意見をいただけるようにする。さらにはそこでの意見を職員間で共有し改善へと活かす。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	丹波市包括センターとの連携を図っており情報収集も行っている。	○	福祉相談員の訪問、地域ケア会議等への参加を積極的にし、ホームで介護教室等の開催をしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○ J Tを実施して職員の理解を深め、その上でサービスへ活かしていきたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで事業所内での虐待について話し合い、法律関連の記事、事例などを利用して学んでいる。	○	・○ J Tを実施して職員の理解を深め、その中で虐待防止に対する意識を高めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約前にはホーム見学や面談の機会を設け、施設の運営・環境・費用等について説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉、サインを大事に捉えてすぐ対応できるようにしている。問題が生じた場合は話し合い、改善につなげている。</p>	<p>○</p> <p>・職員の中で苦情処理委員会を立ち上げ、利用者の思いを汲み上げ、運営に反映させる働きを担っていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・日々の暮らしの記録を一ヶ月ごとにまとめ、コピーして家族へ渡している。 ・預かり金の出金は出納帳に記録し、領収書と共に家族に確認してもらっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ホーム苦情相談窓口や外部の苦情受付機関を設け、重要説明事項に示している。</p>	<p>○</p> <p>・職員の中で苦情処理委員会を立ち上げ、家族の思いを汲み上げ、運営に反映させる働きを担っていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・日常のコミュニケーションや月々のミーティングの際、また業務報告の中で職員の意見・提案を聞き、積極的に運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・利用者の要望、また病院受診などの外出にも対応できるように勤務の調整を図っている。 ・手薄な時間帯、ユニットには非常勤職員を補充している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者と入職者の時期のずれのため、利用者へのダメージがないように十分配慮しているが、介護人材不足が大きく影響している。		退職者と入職者の間で空白になる期間が出ないように整えていく。離職を減らすため工夫していく。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内より講師を依頼し、施設内での勉強会を行っている。 ・外部の研修へは積極的に参加するように呼びかけ、参加した職員には報告させ、全職員にフィードバックしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域のグループホーム職員が見学を訪れ、互いの情報を交換する機会が一度あったが取り組みとしては不十分である。	○	・法人内の施設、または他のグループホームとの交流研修を実施していきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談、月1回の業務報告書、仕事の様子を見ながら対応している。	○	仕事のきつさ、難しさでは悩んでいる様子のときは経験がある、ないに拘わらずグループホームのケアについて話し合ったり、私生活の様子も日常の会話の中から得られる情報であるが解決できることは実行している。個々のストレス解消の方策となっているか評価が難しい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	チャレンジシートを作成し3ヶ月ごと自己評価を実施している。仕事の中でも努力、実績があればその都度評価し、励まし、悩んでいるときは話し合っているが、どれくらい役にたっているかは評価に難しさを感じる。	○	・各々の仕事量・能力を把握し、それに応じて業務の量を均等に割り振っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用前に面談を行い、その対話の中で利用者の思い・希望等を傾聴する機会としている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用前に面談や施設見学を行い、施設運営やケアの質などについて説明や要望を聴き取る機会としている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・入居前の面談の際に利用者・家族の要望やニーズを聞き、ケアサービス計画に反映させている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・利用はじめには利用者の暮らしぶりからその人の要望やニーズを把握してからケアサービス計画を立案し、ご家族への説明を行ってからサービスを実施している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・調理や裁縫など職員が不慣れな事は協力を仰ぎ、教えていただきながら一緒に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>・利用者の得意とされるものを職員が教わるという場面も設けていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・受診や入院となる場合には家族に付き添いをお願いしている。 ・面会の際に一緒に出かけ、散歩に取り組みされている。 		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の誕生日会には家族にも可能な限り参加していただくことで家族との関係を深めている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族も参加できるような取り組みを検討していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や知人友人へ手紙を書いていただくことで、面会もあり、関係が保てている。 		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の表現や行動が誤解されやすい方には職員が仲介役となり、関係が築かれている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士のコミュニケーションの場づくりに取り組んでいく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用終了後にも保たれるよう、普段からの関わりを大切にし、必要に応じて継続的に関わりをもてるように取り組んでいる。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・施設の暮らしの中での会話、訴えを傾聴する中で、徐々に把握できている。</p>	<p>利用者の状態、勤務体制で不可能なことも要望されるが、状況に応じ実現可能に向けて取り組んでいきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・家族からの聴き取りやバックグラウンド様式などを活用し、把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・アセスメント様式を活用し、日々の過ごし方・心身状態・残存能力・ニーズ等の洗い出し、把握に努めている。</p> <p>・利用者一人ひとりの動向を常時把握するように努力している。</p>	<p>○</p> <p>・アセスメントを随時行い、利用者の状態変化に対応できるよう努める。</p> <p>・利用者一人ひとりの心身の状態を更に細部まで把握し、職員全員で共有する。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・アセスメントに基づき、課題・目標をたて、計画作成者・居室担当者・管理者と話し合い、介護計画を作成し、本人・家族に説明、承認をもらった上でケアへ反映させている。</p>	<p>○</p> <p>・作成段階でも本人、家族の希望を聞ける機会を設けていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・月に1度一人ひとりの介護計画についてモニタリングを実施し、援助の評価を行い、3ヶ月ごとに現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>実施期間を明示しているが、状態に変化があれば、随時カンファレンスを開き見直している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の日々の様子や気づきを記録している。 ・個別の申し送りは伝達用の記録様式にて情報の共有、実践を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況、要望に合わせて柔軟に対応しているが、まだ十分とは言えない。		要望全部が実現可能か、どうかは生じた状況によって違いがあると思うが、人員・勤務時間帯・社会資源利用などの工夫をしていきたい。
要望				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティア訪問による催し物を定期的実施している。 ・防災訓練には消防隊員を要請し、指導を仰いでいる。	○	・学校や警察など様々な機関との関係を構築していきたい。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性が生じた場合は対応できるようにしている。		まだ事例がない。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・利用者のケアマネジメントからケアの実践まで全て施設の職員が担っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者または家族が希望し、納得が得られている近隣の医療機関を受診している。(歯科、眼科) ・月に2度、母体の医療機関より往診がある。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・特定の医師が往診するため、施設との関係も築けており、相談や助言を受けられている。	○	・認知症専門医との連携をつくっていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・月2回の往診で来所する看護師、または隣接するデイサービスの看護職員に相談し、助言をもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・サマリーで入院・退院までの経過、ADLなどの情報交換を行っている。 ・長期の入院となる場合は面会へ行き、看護師らと現状について情報交換している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時終末期ケアについて施設方針を家族と話し合い、相談の上、要望に応じていけるようにしている。	○	グループホームでの終末期ケアは困難なこともあるが、家族、専門家、職員と相談のうえ、利用者にとってベストの状況を援助したい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ、事例はないが、要望があればチームとしての支援に取り組んでいきたい。	○	・終末期のケアに必要となってくる知識を現段階で学べるよう、勉強会を実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・入居前または入居時の面談で家族より生活歴やバックグラウンドなどの情報を収集したり、前施設からも情報提供書やサマリーなどをいただいている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報のある書類や記録物の保管場所には中が見えないようにしている。 ・利用者の尊厳を尊重するよう言葉かけには十分に気を配っている。 ・普段の会話の中で利用者の処遇等の話をしてしまうことがある。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・要望や思いの訴えがある時にはじっくりと傾聴し、思いを共有した上で納得いく説明をするように努力している。	○	・利用者一人ひとりに対しての説明・思いの引き出し方を話し合い、対応を職員間で統一したい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・外出の希望がある方にはその方に行く先をゆだね、付き添うようにしている。 ・外出の希望を募り、散歩や喫茶などに外出している。 ・関わりが要望が強い方に偏るといった課題がある。	○	・一人ひとりの生活歴により、趣味や特技を引き出し、コミュニケーションの場作りに活用していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・近隣の行き着けの理容室への送迎を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事準備では具材切りや味付け・盛り付け、片付けでは食器洗い・すすぎ・拭きなど、一人ひとりの能力に合わせた役割を持ち、職員とともに行っている。		昔懐かしいもの、好みの食べ物など普段の会話から情報を得ることがあり、情報を利用者のために活用している。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・個別に購入されたお菓子を保管し、要望に応じて提供している。 ・お酒は利用者の身体面を考慮し、控えている。	○	・ティータイムの飲み物も一律ではなく、一人ひとりの希望によって提供していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・日中、夜間の一人ひとりの排泄状況を把握し、個々に応じて夜用パットや尿瓶の使用、トイレの声かけ、見守りを行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者それぞれの希望を第一に考慮し、臨機応援に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・利用者の心身の状態や体調を考慮した上で、個々の生活リズムに添うかたちで休息していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・炊事・掃除・洗濯等、個々の能力に応じた役割を担っていただいている。 ・カラオケやゴルフ、裁縫など一人ひとりの趣味や特技を取り入れている。	○	・利用者の得意とされる事をさらに引き出し、生活の中に取り入れていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・預り金の管理は職員で行っており、出金・出納帳への記入・領収書の保管等を行っている。 ・希望に応じ、預り金で買い物へ出かけてはいるが現金の管理は職員がしている。	○	・購入代金に合わせた現金を持参し、利用者が自分で支払いを行えるよう対応したい。 ・月に1度、買い物日を設け、預り金でそれぞれ好きなもの購入できる機会をつくりたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・個別で近隣へ散歩や買い物に出かけたり、希望者を募って集団でのドライブ外出や喫茶などへ積極的に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・今まで、療養施設や温泉施設への外食外出を実施している。	○	・月に一度、外食外出を企画し、実施していく。 ・小旅行を企画、実行したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は家族から承諾をいただき、要望に応じている。 ・週に一度、日課として家族にハガキを書かれる方、家族や知人に毎日のようにハガキを書かれる方がおられ、職員が投函している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族のみならず、昔ながらの知人友人、教え子等の面会も数多くあり、居室や居間などで談話されている。 ・面会者は歓迎し、ゆっくりと過ごしていただくためにお茶をお出ししている。	○	・居室には座れる場所が少ないため、落ち着いて談話できる空間を別に設けたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・介護の中で拘束のないよう十分に考慮し、努力している。	○	・「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を全ての職員が理解する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は日中出来る限り開放しているが、利用者の状態や勤務者の配置などによってやむを得ない時間帯もある。 ・利用者の心理状態・動向を察知し、外出には職員の付き添いを徹底している。	○	・玄関を常時開放できるようなケアの質の向上。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・昼夜問わず、巡回を行い利用者の状況を確認している。 ・記録などの書き物は全てリビングで行っているため、利用者の動向を見守りながら行える。	○	・全勤務者が利用者一人ひとりの動向・状況を常に把握できているよう互いに連携をとりながら業務を行う。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・洗剤・刃物等は保管場所を統一するよう取り決めているが、職員見守りのもと使用していただく。	○	・管理方法の規定を定め、実施していく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・歩行が不安定な方には付き添い、無断の外出がある方には見守りを徹底するなどの対応をしている。 ・事故が発生した際には報告書をあげ、カンファレンスを行い、防止策を検討している。	○	・マニュアルを作成し、全職員が熟知できるよう勉強会を実施する。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・心停止に備え、心肺蘇生法の訓練を消防隊員指導のもと実施した。	○	・定期的に勉強会や研修を重ね、様々な状況に対応できるよう訓練していく。 ・緊急時対応マニュアルの作成。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年に2回、防災訓練を実施し、非常時避難訓練・火災消火訓練・救急訓練などを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時乳先、入所先の関係者と家族を交え、十分に話し合い、受け入れの体制を整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・利用者の体調変化や異変を発見した際には個別申し送りとして記録し、全ての職員が確認できるようにしている。 ・対応策の検討が必要な際には随時カンファレンスを実施している。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋をファイリングして薬剤の用途・副作用等をいつでも確認できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排泄状況を把握し、必要に応じて下剤を服用している。 ・便秘がちの方には朝に牛乳をお出ししている。 ・散歩や体操を励行している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・起床時・就寝時に一人ひとりの能力、状態に合わせて、口腔ケアの声かけ、見守り、一部介助を行っている。	○	・毎食後にも口腔ケアの声かけ、見守りを行っていく。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々の食事摂取量を記録し、把握している。 ・水分摂取量の少ない方には水分量チェックを行い、摂っていただけるよう勧めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・食前や外出後には手洗い、うがいを励行している。 ・毎食後に口腔ケアを呼びかけている。 	○	・感染防止マニュアルを作成し、実施していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の食材は栄養課にて衛生管理され、配送される。配送された食材はすぐに冷蔵・冷凍保存している。 ・まな板や包丁等、調理器具は市販の漂白剤で殺菌消毒している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に利用者の施設での暮らしぶりの写真を掲示し、面会者が普段の様子を観れるようにしている。 		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下や居間には絵画や観葉植物を配置して心地良い雰囲気を作っている。 	○	・月々によってその季節を感じとれる装飾品を飾り付けていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・皆思い思いに過ごす空間となると個々の居室となっており、居間では時おりテレビを観られている。 	○	・居室だけでなく共用部でも気ままに過ごせたり、利用者同士でおしゃべりできるような場所を創っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・基本的に家具やテレビなどの持ち込みは自由であり、タンス・机・椅子など、使い慣れたものを自宅から持ち込んでいただいている。 ・日時を確認できるようカレンダーや時計などを置いたり、家族の写真を置かれている方もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・温度・湿度計を設置し、室温・湿度を見ながら調節している。 ・エアコンの温度設定は夏は冷房22度、冬は暖房24度に設定している。 ・フロアや居室の状況に応じ、随時換気を行っている。	○	・乾燥防止の為の対策を検討する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室には洗面台・トイレを設置している。 ・洗濯機は2台あり、それぞれが自分の衣服を洗えるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・利用者一人ひとりの能力に合わせた役割を日常生活の中で担っていただいている。(掃除機がけ、洗濯物干し、洗面台清掃、食器拭き、調理等)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・裏庭には園芸や農作ができるように畑を造っている。	○	・園芸を手軽に楽しめるようにベランダにプランターを置き、利用者それぞれに草花を育てていただく。 ・畑では季節の野菜を作るよう活動していく。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		バラ (2F)
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

室内での体操、趣味活動なども大切であるが、出来るだけ外の空気にふれ、皮膚の感覚を鍛えたい。
また、毎日の変化のある景色の中で季節、時間の流れ、空の変化などを知って頂きたい。
散歩、外出の短い時間でも職員と分かち合える一番の時間にしたい。